

令和5年度第3回花巻市史編さん委員会 会議録

1 開催日時

令和5年11月16日（木） 午後2時30分～午後3時30分

2 開催場所

花巻市博物館 講座・体験学習室

3 出席者

(1) 委員10名

佐藤由紀男委員、七海雅人委員、兼平賢治委員、田中藍子委員、中嶋奈津子委員、大原皓二委員、阿部茂巳委員、菊池邦雄委員、高橋信雄委員、中村良幸委員

(2) 事務局（博物館市史編さん室）6名

佐藤勝教育長、佐藤恒室長、小原伸博上席主査、因幡敬宏主査、三浦友季学芸調査員、柳原純也行政事務員

4 議 事

(1) 花巻市史編さん基本方針の未決事項について

(2) 専門部会の設置について

5 議 事 録

(1) 開会（進行：佐藤恒室長）

[委員会成立報告（委員10名出席）]

(2) 挨拶

(佐藤勝教育長)

今日は大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

今回は花巻市史編さん基本方針案とスケジュールについてお諮りいたしました。特別編の構成、児童向け市史の発行について更なる検討が必要との結論に至りましたので、本日はこの件についてご検討をお願いしたいと思います。

特別編については、当然不可欠ですが、全ての分野を網羅するという事は難しいし、とても大きな分量になるのではないかと考えております。

これまでの花巻あるいは周辺自治体での出版物を見ると、それに見合うものもある程度

ございますし、もちろん不足する部分は補わなければならないと考えております。

また、児童向け市史につきましては、前回の委員会で佐藤委員より具体的な手法をお示しいただいたところではありますが、そのことを踏まえ事務局で検討させて頂いたものを本日提案申し上げ、ご意見をいただければと思います。

今日はよろしく願いいたします。

(佐藤恒室長)

それでは3. 協議に入らせていただきます。

議長は、花巻市史編さん委員会設置要綱第4条第2項の規定により、当委員会の委員長であります高橋信雄様にお願いいたします。

(高橋信雄委員長)

それでは議事に入らせていただきます。

(1) 花巻市史編さん基本方針の未決事項について、それから(2) 専門部会の設置について協議を進めていきたいと思っております。

それではまず、(1)の3. 全体構成についてご説明をお願いしたいと思います。

[因幡敬宏主査：(1)の3. 全体構成について説明(会議録への掲載省略)]

(高橋信雄委員長)

事務局案の自然、民俗、郷土芸能、人物、美術工芸についてご意見を伺いたいと思っております。

(兼平賢治委員)

その前に少しよろしいでしょうか。

(1) 構成の資料編のところですが、前にも指摘したかと思いますが、基本的には市史を編さんする場合は、資料を発掘してそれらを基にして通史を描きます。

従って資料編は、通史編に収まらなかった事柄を記載するというのは逆だと思います。通史編を描く上での基になる資料を収録するのが資料編だと思います。

また、「通史編を編さんする上で根拠となる資料を文章や写真、図などで解説する」とありますが、この文章というのは、資料を現在の我々の文章で説明する以外にも、資料そ

のものを活字にして収録するということもありますので、資料編のところは修正しないといけないと思います。

(因幡敬宏主査)

兼平委員がおっしゃる通りに修正したいと思います。

(高橋信雄委員長)

特別編の民俗と郷土芸能を別々にすることについて、花巻の特色として、別々にするというのでしょうか。

(因幡敬宏主査)

民俗と郷土芸能を合わせると、かなりのボリュームになると想定されますので、2つに分割して提案させていただきました。

(兼平賢治委員)

特別編で花巻の魅力や特徴を示す必要はもちろんあるとは思いますが、やはり5巻となると、五つの部会を作らなければなりません。それはやはり厳しいと思います。

例えば、青森県や規模の大きな自治体では、細かく特別編を作っていますが、北上市だと自然編と民俗編、それから遠野市も民俗のみと分野が少ないです。美術工芸についてもこれだけ取り上げるべき題材があれば検討すべきだと思います。

人物については、地元の方々からの声があったので、作るのもいいとは思いますが、通史編の方で各時代の中に入れるという方法も考えられるかなと思いました。

(中嶋奈津子委員)

今、兼平委員からお話がありましたが、私も5巻は大変だと思っています。

民俗と郷土芸能は、一緒に良いのではないかと思いますし、先ほどのご説明だとそれぞれのボリュームが大きいので、2巻に分けるということでしたが、本当にそのボリュームを二つに分けた場合、執筆者もすごく必要になりますし、逆に大変になるのではないかと思います。

決まった分量の中でまとめて書いたほうが中身も充実するのではないかと思います。

仮に5巻各項目について1巻ずつというお話でしたが、あるものはすごくボリュームが

あって、あるものは非常に少ないボリュームだったというような状況が万が一起れば、それもどうなのかと思います。ある程度は揃えなければならないと思います。

(高橋信雄委員長)

ありがとうございます。

民俗の中に郷土芸能を入れるというのが大方のご意見のように思います。

郷土芸能を除いて4巻ということで考えて、人物をどうするかということについて、ご意見いただければと思います。

(阿部茂巳委員)

通史編の中で、人物をコラムみたいな形で取り入れる方法もあろうかと思います。人物編として扱うと扱いきれなくなりますので、何か工夫はないものかなと思います。

(高橋信雄委員長)

私は人物編を編さんしてしまうと、宮沢賢治、斎藤宗次郎、萬鉄五郎の3人を並べた場合、ボリュームに強弱が出てくるような気がします。

(佐藤由紀男委員)

高橋委員長がおっしゃるように、誰を取り上げ、誰を取り上げないから始まって、その方をどのように表現するかまで考えると、極めて難しいと思います。

東北6県は、先人を顕彰する資料館が多いと思います。特に宮城県や青森県が多いと思いますが、この地域の特徴といえば特徴なのでしょうけども、あえて取り上げなくてもいいのかなと思います。通史編や資料編の中でサラッと流した方が良い感じはいたします。

(高橋信雄委員長)

人物編として独立させなくても良いのではないかというご意見の方が多様な気がします。よろしいでしょうか。

そうすると、特別編の分野については、自然、民俗、美術工芸と3本立てで行くと。そういう方向でよろしいでしょうか。

(阿部茂巳委員)

例えば、美術工芸を生かすとすれば、そこに萬鉄五郎が説明できるかどうかと、そういうような形でも考えることができるのではないのでしょうか。

(高橋信雄委員長)

人物は通史編の中で取り上げてもらうというご意見のほうが多いようですので、全体構成は通史編、資料編、特別編として、特別編で扱う分野は自然、民俗、美術工芸でよろしいのでしょうか。

[意見なし]

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

次の4. 児童向け市史の発行についてご説明をお願いします。

[因幡敬宏主査：4. 児童向け市史の発行について説明（会議録への掲載省略）]

(高橋信雄委員長)

ただ今事務局から編集方針という形で示されております。ご意見を伺いたいと思います。

(佐藤由紀男委員)

いくつか確認させてください。

利用方法として、市内の小学校5年生に配布するということですから、この方々には無料で配るといったことなのか。

また、副読本として使おうとする先生がいれば使えるということなのか。

そして、小学生5・6年生を対象にした、社会教育・生涯学習的な視点ということなので、例えば隣の市の小学生や大人が購入したいとなった時は、販売も行うという認識でよろしいのでしょうか。

(因幡敬宏主査)

全てその通りでございます。

(佐藤由紀男委員)

はい、わかりました。

(高橋信雄委員長)

他にご意見はありませんでしょうか。

それでは、児童向け市史の発行については、この編集方針と利用方法で進めるということでご了承いただけますでしょうか。

[意見なし]

続いて、児童向け市史の名称や構成など、この辺りの説明もお願いします。

[因幡主査：4. 児童向け市史の発行（詳細）について説明（会議録への掲載省略）]

(高橋信雄委員長)

具体的にどういうものにするかということについては、今説明があった通りですが、ご意見ございますでしょうか。

(佐藤由紀男委員)

名称についてですけども、ここで決めるより、実際に執筆される方々で委員会を作られるでしょうから、そこに一任という形がよろしいように思います。

もうひとつは、実際に執筆していただく方々が教職員、学芸員、文化財担当者、郷土史研究者になるかと思いますが、以前、佐藤教育長と話をしたときに、教職員の方で、執筆のお願いできそうな方が少ないかもしれないというお話を伺っております。

これは参考ですが、かつて私は浜松市の博物館に勤めておりましたが、そのときには学校に貸し出す資料ですとか、学校教育との連携ということで、それを主に担うために指導主事の方に来ていただいていた。その指導主事の先生も、50歳前後の方ではなくて40歳前後の方に来ていただいていた。要は現役で仕事をされている方に来ていただいて、学校の先生方に委嘱状を出して、何人かの同年代の学校の先生方に委員会を作っていたら、博物館で年に何回か会合をしたことがあります。

例えば、花巻市内の小学校の先生で40歳代の方に頼むというのが業務量から考えても

大変だということであれば、執筆ではなく、年に何回か話し合いをするような委員会を作り、お互いに忌憚ない意見を述べ合って、それを市史の執筆に活かすやり方も良いのではないかと思います。

注意が必要なのは、執筆者は同い年ぐらいの人でそろえる。そうすることで、お互い話がしやすいと思います。年齢差が出てくると、なかなか本心が言いづらかったりしますので、その辺も少し配慮をして、委員のメンバーや執筆者を選んでいただくと、小学生が使いやすいものが出来るような気がいたします。

(高橋信雄委員長)

ありがとうございます。

今佐藤委員がおっしゃられたことを参考に、事務局の方でやり方について、検討していただきたいと思います。

これで、花巻市史編さん基本方針の未決事項が解決したということになります。

続きまして、協議の(2) 専門部会の設置についてご説明をお願いいたします。

[因幡敬宏主査：(2) 専門部会の設置について説明(会議録への掲載省略)]

(高橋信雄委員長)

ただいま、専門部会の設置について、専門部会は5部会ということですが、これについてご意見を頂きたいと思います。

(七海雅人委員)

特別編の自然、民俗、美術工芸の3分野について、部会は設置しないのでしょうか。

(因幡敬宏主査)

特別編の部会も設置する予定でございます。

スケジュールとして、通史編と資料編の後に、特別編の執筆発行となりますので、まずは通史編、資料編の部会を設置して、その後に特別編に関する部会を設置したいと考えております。

(七海雅人委員)

資料編、特別編が揃って初めて通史編ができるような気もしますが、特別編は切り離すということになるわけですね。

あと、古代と中世は合わせて1巻でよろしいと思いますが、古代部会、中世部会と分けた方が良いと感じます。

理由として、歴史考古学の分野になりますが、古代と中世を一つの部会として設置しても、結局、古代班と中世班に分かれてしまうので、最初から古代部会、中世部会で分け、それぞれの部会長同士できちんと連絡を取れるようにして、あとは部会独立で仕事を進めた方が今までの経験からスムーズにいくと思いました。

(高橋信雄委員長)

ありがとうございます。他にありませんか。

(阿部茂巳委員)

専門部会の人選はすでに進めているんですか。これからなんですか。

(因幡敬宏主査)

既に事務局の方で、候補者リストは作成しており、次回の委員会で具体的な名前を上げさせていただきたいと思います。

(中嶋奈津子委員)

特別編の部会は設置するけれども後だということですよ。執筆される方が例えば、民俗と近現代が被る場合が出てくるのでしょうか。

(因幡敬宏主査)

民俗の場合だと、近世の民俗、近代の民俗というものもありますので、通史編と特別編で被る部分は出てくるかと思います。

(中嶋奈津子委員)

被るとなれば引き受けて下さる方がいないような気がします。通史編、特別編の割り当てについて、最初から分けてしまったほうがトラブルは無いと思います。

(因幡敬宏主査)

参考にさせていただきます。

(阿部茂巳委員)

市史編さん委員にも協力を依頼するということですか。

(因幡敬宏主査)

市史編さん委員のご専門を生かして、ぜひ専門部会の方にも協力をお願いしたいと思っております。

(佐藤勝教育長)

特別編は、最初から部会作った方が進めやすいという事なのではないでしょうか。後からというよりは早々にスタートした方が良いということであれば、そちらの方が良いかなと思いますけども。

(高橋信雄委員長)

私は最初からやはりきちっと部会として機能していた方が良いと思います。通史編とか資料編にも関わってくる問題だと思うので。

(兼平賢治委員)

遠野市史の場合は、民俗編ができるのはちょっと後でしたが、部会長だけはもう決まっていたので、専門委員会（遠野市では各部会の部会長の会議）には出てきていただいております。

そのほうが、どのように市史が作られていくのかということを理解していただいた上で、民俗編とか特別編のほうを考えていただけたらと思います。

部会長だけは決めておいて、専門委員会の場で色々ご意見を伺って、通史編、資料編というのがどのように出来ていったかという過程も理解しながら特別編を作った方が良いと思います。

(高橋信雄委員長)

今の兼平委員のご意見で大体まとめてもらったような気がしますけれども、事務局の方

で今後、部会の設置の仕方について検討いただければと思います。

それでは以上をもちまして、本日の議事を終了したいと思います。

様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

(佐藤恒室長)

委員長ありがとうございました。

それでは次第の方に戻らせていただきまして、4番のその他となりますが、皆様の方から何かお話ししたいことはございますでしょうか。

[意見なし]

無ければ以上をもちまして、令和5年度第3回花巻市史編さん委員会を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。

閉会

(以上)